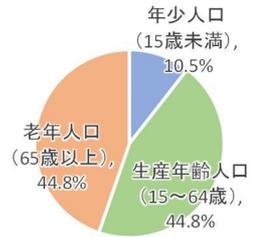


	世帯数	人 口	年 齢 別 人 口	
現 在	46 世帯	105 人	15 歳未満 (年少人口)	11 人
			15～64 歳 (生産年齢人口)	47 人
			65 歳以上 (老年人口)	47 人
約 50 年前	38 世帯	193 人		



歴史等

古代律令制では播磨国神前郡多駝里、中世は蔭山荘に含まれたと考えられます。元禄年間(1688～1704)の『元禄郷帳』に「古ハ庄村、小倉村」とあるように、元禄年間以前に、庄村から分村して成立しました。近世は庄村として豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、分村後も姫路藩領でした。明治9年(1876)に八千種村の一部となりました。

春日山の東に位置し、古墳時代に石棺材として利用するために、加西市高室で産出される高室石を運んだ道の一つが当村を通過していたと考えられます。地蔵庵跡には刳貫石棺の棺身も残されています。また、法華山一乗寺(加西市)に参るための法華道も通過していたと思われ、「右ほつけ 左北条」と刻まれた道標も残されています。



若宮神社



難波浜太郎頌徳碑 (若宮神社前)



石棺棺身 (地藏庵跡地)



瓦製狛犬 (若宮神社)



秋祭り・屋台



小倉路傍道標 (法華道)

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	1	如意輪観音坐像(地蔵庵跡地)	弘化3年 (1846)	如意輪観音の石仏。台座正面には「如意輪観世音像」、左には建立年月が記されている。				●		
	2	石鳥居(若宮神社)	明治33年 (1900)	石鳥居。右柱左には天正5年9月造立のものを明治33年に再建(改造)したことが記され、左柱右には願主が記されている。				●		
	3	石灯笼(若宮神社)	文化2年 (1805)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面には「御神灯」、側面に願主、背面に取巻人が記されている。右灯笼の左に造立年月が記されている。左灯笼は火袋が失われている。				●		
	4	石灯笼(若宮神社)	天保15年 (1844)	石灯笼。正面には「常夜灯」、右に造立年、左に造立月が記され、基礎の正面に「氏子中」と記されている。				●		
	5	石灯笼(若宮神社)	明治41年 (1908)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面に「献灯」、各側面にそれぞれ造立年月と願主が記されている。				●		
	6	手水石(若宮神社)	享和3年 (1803)	手水石。正面に「盥右」、左に「当村氏子中」、背面に造立年月日が記されている。				●		
	7	難波浜太郎頌徳碑(若宮神社前)	昭和14年 (1939)	難波浜太郎の顕彰碑(頌徳碑)。正面には「頌徳」の文字とともに頌徳碑文が記されている。		●				
	8	難波寿輔頌徳碑(柳谷池)	昭和27年 (1952)	難波寿輔の顕彰碑(頌徳碑)。正面には「頌徳碑」の文字とともに頌徳碑文が記されている。		●				
	9	石段標(若宮神社)	明治42年 (1909)	左右一対の石段標。右柱正面に「奉」、左に造立年月、左柱正面に「納」、右に「当村氏子中」と記されている。				●		
	10	石棺棺身(地蔵庵跡地)	不明	刳抜石棺の棺身。				●	●	
	11	道標(小倉路傍)	不明	道標。正面には地蔵坐像の像容とともに「右つし川 左ひめし」と記されている。				●	●	
	12	百度石(若宮神社)	昭和12年 (1937)	百度石。左側に難波濱太郎、難波撰治の銘あり。				●		
	13	道標(小倉路傍)	不明	法華道の道標。「右ほつげ 左北条」と刻まれている。				●	●	
	14	本尊加持水(地蔵庵跡地)	—	由来は不明。側面に維時天保十亥正月建口の記あり。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

小 倉

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり									
				①	②	③	④	⑤	⑥				
美術工芸品	絵画	15	七福神図（若宮神社）	文久元年（1861）	奉納者は「辰之助」とある。33×42 cm。			●			●		
		16	神馬（繁馬）図（若宮神社）	不明	奉納年月日は「卯 8 月」とあるが詳細は不明。奉納者は「当所氏子中」とある。32.5×48.5 cm。			●			●		
		17	女拝み絵図（若宮神社）	不明	奉納者は「当所辰年 26 才女」とある。枠が破損している。31.5×45.5 cm。			●			●		
		18	武者絵図（若宮神社）	不明	奉納者は不明。破損している。8.5×64.5 cm。			●			●		
		19	芝居図（若宮神社）	不明	奉納者は不明。28×38.5 cm。			●			●		
	工艺品	20	瓦製狛犬（若宮神社）	寛政 10 年（1798）	瓦製の狛犬一対。						●		
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	21	若宮神社上棟棟札	天正 5 年（1577）	若宮神社の棟札。総高 58.9×上 16.2 下 16.7 cm、厚さ 2.2 cm。福崎町内で確認された棟札の中で最も古いもの。裏面には、本神殿は貞観元年（859）に造営されたもので、老朽化にともない天正 5 年（1577）に再造営したことが記されている。						●		
		22	若宮神社屋根替臨時祭典執行棟札	明治 43 年（1910）	84.0×22.5×3.0 cm。						●		
		23	小柱三枝書林棟札	不明	86.0×13.5×1.0 cm。				●				
有形の民俗文化財	祭具	24	屋台（小倉区）	大正末期	布団屋根型屋台。大正末期に村の青年たちの強い希望により、姫路で開催された博覧会に展示してあった屋台を購入し、姫路から担いで持ち帰ったと伝わる。白木の小さな屋台であるが、狭間は名人と言われた飾磨の松本義廣の作で、鎮西八郎（源為朝）、曾我五郎、天の岩戸及び布引をモチーフにしている。伊達幕と提灯は加東郡古瀬畑（現・加東市社町）の絹常の作と伝わり、龍・虎をモチーフにしている。購入依頼約 90 年余り大切に守っており、泥台、本棒、海老飾りなどは新調・補修したが、現在もほぼ当時の姿を残している。						●		●
	その他の有形の民俗文化財	25	力石（地藏庵跡地）	不明	1 個。54×31×14 cm（20 貫）。切付無し。かつて村の若者がこの石を持ち上げ合って力を自慢したとの言い伝えが残る。						●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
無形の民俗文化財 年中行事・民俗芸能	26	秋祭り（八千種）	—	八千種地区の余田・庄・鍛冶屋・小倉の屋台4台（いずれも布団屋根型）・神輿1台が大歳神社に集まる（近年は担ぎ手不足のため小倉屋台は不参加）。本宮では、屋台が宮入りし、境内での屋台練りの後、浄舞が舞われて神輿渡御が行われる。神輿に続いて屋台も宮出を行い、神社前の池畔の御旅所前で神事後、再度浄舞が舞われる。神輿の還御が行われ、再び屋台が宮入りし、境内で練り合せを行い、各地区代表による手締めの後、宮出となる。			●	●		●
	27	とんと	—	1月の成人の日前後に3組の御燈当番が輪番制で行う。とんとを設営し、夕方点火して正月飾り等を燃やすとともに、餅焼きを行う。また、書初めを燃やして書道の上達を願う。御燈当番により御神酒やおこわ（白飯）がふるまわれる。				●		
	28	初午	—	2月の2の午の日に岸本稲荷で僧侶や神官を招いて神事を行う。その後、塚森稲荷に移動して「子ども花相撲」を行う。赤飯や御神酒をふるまう。				●		
	29	花祭り	—	5月8日にお釈迦様の誕生を祝う。小倉公民館で行われる。御堂を花で飾り、御堂の中央に安置した釈迦像に甘茶をかける。また、参拝者に甘茶をふるまう。				●		
	30	夏祭り	—	7月20日前後に岸本稲荷で3組の御燈当番が輪番制で行う。周辺の草刈りや清掃を行い、参拝者により般若心経を唱える。御燈当番により御神酒や赤飯がふるまわれる。				●		
	31	地藏盆	—	8月23日に小倉公民館で行われる。子どもの健やかな成長を願い、地藏尊にお供えをするとともに、参拝者により般若心経を唱える。お供えはお下がりとして地区住民に分配し、子どもにはお菓子等を配る。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

小 倉

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり												
				①	②	③	④	⑤	⑥							
遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡等	32	福井谷遺跡	弥生時代～平安時代	周囲には奈良時代の土器や鴟尾を焼いたことで知られる福井谷窯跡や鴟尾棺を出土した姥懐古墓、窯焼きや土器作り工人がいたと考えられる文治遺跡や文治口遺跡が存在する。東接する加西市にも窯跡が確認されており、一帯が窯業生産遺跡の密集する地域である。							●				
		33	八千種庄廣芝遺跡	奈良時代～中世	奈良時代から中世にかけての集落遺跡。							●				
	城館跡・寺社跡	34	春日山城跡（飯盛山）	中世	中世の城跡。建武年間（1334～1336）の築城とされ、後藤基明が初代城主と伝える。天正6年（1578）、羽柴秀吉の播磨攻略で落城。春日山の山頂には、曲輪、食糧貯蔵庫跡などの遺構が残る。											●
		35	法華道	—	法華山一乗寺へ続く東西の道筋。										●	
	街道・古道等	36	石の道（八千種ルート）	古墳時代	加西から地形的にも谷部分が結びついているため、6世紀後半から7世紀前半頃に八千種周辺で発見される石棺材を運ぶのに使われたと考えられる道筋。											●
37		春日山	—	播州後藤氏の居城と言われている春日山城の城跡が残る。標高198mの山頂からは、姫路平野を見渡すことができる。登山道が整備されている。							●					
その他	信仰の場	38	若宮神社	—	大山咋大神を祭神とする小倉区の氏神。									●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・ 自立（律）のまちづくり交付金事業を活用して、区の伝統行事である地藏盆の盛り上げや三世代の交流の取組を実施しています。公民館の北側に、地区役員で8月にコスモスの種まきをして、10月末に地区住民を対象としたコスモスマつりを開催しています。まつりではもちつきや炊き出しなどを行い三世代の交流を図っています。
- ・ とんと、初午、夏祭りは、区域住民が3班に分かれて輪番制で実施する御燈当番が中心となり、現地周辺の清掃等を実施しています。祇園祭は神社周辺の清掃と飾り付けを老人クラブが主体となって実施しています。



地藏盆



コスモスマつりの様子

